

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201025		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム三保松原		
所在地	静岡県静岡市清水区三保2432-2		
自己評価作成日	平成27年11月13日	評価結果市町村受理日	平成28年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyouCd=2274201025-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、ご家族様に、グループホームで生活していただいている良さを感じて頂けるように心掛けています。「集団」ではなく、個人個人が「共同」の生活を営める場所という認識のもと、お一人お一人のニーズを模索し、ご入居者様、ご家族様に「愛の家でよかった」と思って頂けるようなグループホームを目指しております。又、地域性を活かすために、海岸清掃活動を通じ、地域交流、地域貢献を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「世界文化遺産らしい三保松原を皆で守りましょう！」との掛け声で始まる海岸清掃は、真夏と真冬を除き月1~3回おこなわれており、地元のフリーパーでも紹介されています。事業所までの道のりには樹齢何百年かと思うほど立派な松がそびえ、また玄関周りには全国に260余の事業所を擁する法人主催のコンテストで入賞したウエルカムガーデンが歓迎しています。職員定着に課題のあったこの一年でしたが、七夕まつり・夏祭り・花火大会・佐久神社祭典見学、いちご狩り、保育園児来訪、幼稚園・小学校訪問、家族会、敬老会、クリスマス会…と従来の行事をつつがなく執り行ったことに職員努力と開設11年の力の蓄えが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内容を随時変更させながら、会社のビジョンの中の、8項目を出勤時に、スタッフが合わせて唱和することで意識統一を図っている。	利用者を想う職員の感情が大きくなり過ぎると本人の気持ちがおきざりになることが間々あり、理念(ホームビジョン)はそんなときの省みて収束する軸として常日頃から用いられ、馴染んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加したり、近隣の、保育園、小学校の行事に参加させていただくことで地域との交流を図っている。	「これからも世界文化遺産らしい三保松原を皆で守りましょう!」との掛け声で始まる海岸清掃は、真夏と真冬を除き月1~3回おこなわれており、6年目となる真摯な行事は地元のフリーペーパーでも紹介されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についてのホームからの発信は不十分。今後、サポーター養成講座、介護相談会など地域に向けて企画していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の定期開催を実施している。活動報告をおこなっている。参加者からの意見をいただき改善、向上に努めている。	地域包括支援センター職員が研修生を随行くださった回もあり、また近くのグループホーム管理者もメンバーとなって豊かな顔ぶれです。日頃の暮らしや行事の様子をパソコンで披露してリアルに伝わると喜ばれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員様の受入れは行っているが行政の担当者様との協力関係は築けていない。	市の集団指導には必ず参加し、法令遵守に努めています。郵送で済むようなことでも行政窓口へ届けることを旨とし、運営推進会議議事録も直に手渡していますが、案内は出していません。	運営推進会議の案内を市役所にもだして、1回でも都合をつけてもらえることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを設置し、定期的に研修も実施してスタッフの意識の向上に努めている。	玄関、ユニットに施錠はありません。また拘束となるような場面をつくらないこととして、手前での回避、工夫を重視しています。そのため管理者は朝夕の定期ほか日中も時間をつくって巡回をおこない、ユニットリーダーも目配りを怠りません。	ストレスケアとなる休憩は「とれるよ」という人、「とりにくい」人様々なため、業務フローを作成のうえ精査する予定とのことですので、進捗を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内において定期的に研修を実施している。マニュアルと合わせて、虐待に関する事件の資料も活用し、防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での研修で学ぶ機会を持っているが、活用し、サービスの向上につなげるには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に担当者が、ご家族に不安や疑問点が無いよう説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置と、運営推進会議での意見交換も行い、年1回のご家族様アンケートも毎年実施し、ご意見、ご要望の収集に努めている。いただいた意見を基に、サービスの向上につなげている。	花見と食事を兼ねた家族会が春秋年2回あり、廊下には記念撮影の写真が何枚も連なり、満開の笑顔からも親交の厚さが伝わります。忌憚のない進言もあり、最近では月毎に送る便りの形式を変更しました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回の会議と、スタッフアンケートの実施により、機会を設け、意見の抽出から反映につなげられるよう努めている。	入職1ヶ月は交換日記形式で先輩がフォローする仕組みが期間を過ぎても続くケースもあり、関係の良さが見てとれます。「スタッフルームが欲しい」と具体的に挙がるため、できることから順次実行しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議の中だけでなく、普段の会話からもくみ取れるようつとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人のニーズと能力を把握することに努め、必要に応じて面談や、意見交換ノートを活用し成長できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所様の運営推進会議に参加させて頂いている。第三者評価機構様が主催の研修にも参加させて頂き質の向上につなげられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前からご本人、ご家族様とのコミュニケーションを図り、必要に応じてご自宅を訪問したり、入居体験をして頂くことで安心してご入居頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前からご本人、ご家族様とのコミュニケーションを図り、情報だけでなく、ご家族様の「想い」を理解、共感するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの内容、現在のユニットの状況を踏まえたうえで適切な支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームだからこそできる関係作りに努めている。さりげない支援でなるべくADLを低下させないケアに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、通院の協力を促し、ご家族様からのご協力をいただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や、手紙のやり取りの支援や、ご入居前からの地域資源の活用など、アセスメントを基に支援している。	飲酒、ウクレレ・キーボード演奏、ぬか床と趣味嗜好を続けることができています。「自宅周辺の散歩が日課だった」という利用者にはドライブも兼ねて自宅近くでの散歩をする、といった個別支援があります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御入居者様同士の性格や相性を考慮し、普段の距離感や、スタッフの介入の度合いを配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからでも、退去先に伺わせて頂いたり、電話でのやり取りで、コミュニケーションを一方向的に切らないよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の「想い」を把握するよう、日頃の言動、アセスメントからくみ取れるように努めている。	「釣り好きだった人は海まで行って竿を伸ばすだけでも満足である」「花を育てるのが愉しみな人は小さなプランターでも嬉しい」と、理念に基づき「その人の出来ないことをさりげなくサポートしよう」が推進されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に、生活パターン、お部屋の家具の配置などを把握し、ご入居後にストレスがなるべくかからないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録、日報などから情報共有し御本人の身体状況、精神状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて話し合い、ご本人のニーズに沿った計画が作成できるよう努めている。	10月にケアプランの書式変更があり、「したか、しないか」をより明瞭にするために“実施表、」が加わっています。「プランに添ったケアサービスが業務である」と改めて認識できる好機として定着が図られています。	サービス担当者会議には看護師(職員)の参画もあり医師の意見も含まれていますが、「家族も参加できる」前提として、毎月の発送を介して告知(誘いかけ)することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や日報、申し送りノートを活用し共有に努めている。それらを基に担当スタッフと計画作成担当者がサービス担当者会議の準備を行い見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の外出、通院介助に対応している。グループホームだからこそできるサービスの提供を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩、買い物、地域の行事への参加を継続することで地域の一員として暮らしていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族様の希望に沿った主治医にて適切な診療が受けられるようご入居時に説明をさせて頂いている。	協力医にほぼ9割が変更しており、往診が月2回あります。従来のかかりつけ医を続ける人もすべて職員が受診支援しており、家族には後日報告しています。週2日看護師も常駐しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師の勤務時だけでなく、随時電話で状況報告から支持を仰ぐなどの対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	繰り返し病院へ訪問し、情報の収集に努めている。その都度、NSやDrからの情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずはご入居時に同意書の説明を行っている。その後もご本人の状態にあわせて支援の方針を話し合い決定している。	これまで老衰に近い看取りはありますが、医療連携の伴うものは実績がありません。医療行為が必要なれば取組む考えですが、「こうなったら」「あんなったら」と条件の細かい提示はなく、都度本人の心身状態を鑑み家族と相談しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を実施し、どのスタッフでも対応できるよう努めているが、実践力の向上は実際の対応を経験する必要もあるので、今後も全スタッフが対応できるよう研修を行っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内にて年2回の訓練を実施している。地域の避難訓練にも数名ではあるが参加している。	本年全員にライフジャケットとヘルメットが行き渡りました。ホーム内研修にも組入れ、また管理者が予め「都合のよい日を～」と消防署と調整していることで年2回の訓練では実践的指導を受けることができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様は、お客様であり、人生の先輩であるということを意識しつつ、馴染の関係が築けるように努めている。	呼称は「～ちゃん」づけをしないと決めています。要望があれば臨機に対応しています。軽度な人には一人で浴室にはいってもらい職員は脱衣所で待つ場合もあり、症状や状態によって方法を替えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が選択できるようなさりげない配慮と、日常会話からのニーズの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を表しやすい環境づくりから、その「思い」を実現できるような支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の趣味を把握し、継続できる環境づくりに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの表示や、嗜好品の活用、ホーム内の畑の活用をしながら、楽しみを持って食事をして頂けるよう支援している。できる方には、片づけも分担して行っていただいている。	食事は1階の調理室で専任職員が作ります。2階へは運搬用具が使われ、女性利用者が大きなカートで「行くよ～」と元気に押す光景は圧巻でした。利用者と協働作業で種蒔き、水まきで収穫した野菜も食卓に並びます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量を把握して対応できるようチェック表を活用している。必要な方には個別で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで清潔の保持、状態の把握に努めている。必要に応じて提携の歯科医院への受診、往診にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人一人の状態を把握するよう努めている。又、排泄委員会を中心としてパット、おむつ類の見直しを行っている。	排泄チェック表は介助が必要な人のみで、自立している人は目に見える干渉はせず食事量など日常の様子から観察するようにしています。排泄委員会では家族の経済的負担も考慮した検討がみられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、食事摂取量を把握し、乳製品やオリゴ糖を個別で利用していただいている。看護師と連携し、便秘の方への対応をその都度検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望の時間に入浴される方もいらっしゃる。入浴の拒否がある方もスタッフや時間を変更して入浴を楽しんで頂けるよう配慮している。	一般家庭の浴槽で、浴室も決して広くはありませんが、片付けられ整然としています。入浴を毎日希望する人はいませんがおこなう態勢にあり、拒否があることから清潔保持のめやすを週2日としています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活パターンや、その時の体調を見極め、リビング、居室で休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師、薬剤師の協力のもと服薬の支援をしている。変更の際には報告書で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントを基に、グループホームに入居されてからもご自宅での生活が継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物その他、冠婚葬祭、お孫さんの行事などに参加できるよう支援している。	好天であれば富士山を眺めつつの散策をおこない「水族館まで」「バラ園まで」とコースに事欠きません。近隣のショッピングセンターでの買い物のほか、回転寿司も年数回出かけています。法事や孫の運動会への送迎も職員が支援しています。	建具業を営む家族の手造り壁掛けが大変素晴らしいため、法人コンテストにはガーデニングやおやつに加え是非「家族支援」が誕生することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの管理はホームでさせて頂いているがご家族様のご理解、ご協力を得て、ご本人が所持の場合は基本、管理は自己責任という形で、お持ちの方が4名いらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によりホームの電話を使用される方もいらっしゃる。個人で携帯電話を所持、使用されている方も2名いらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様にとって家であり、生活をして頂く場所であるという意識を持ち温度管理や環境整備に努めている。	「(公民館などで)作品展を開きたいね」と言い合うほど見応えのある利用者の絵画はギャラリーように壁一面に飾られています。「朝夕の清掃だけでこんなにキレイか」と驚くほど清浄で、美化委員と職員の気配りの高さを感じました。	(個人の好みですが)家族の声から導入したという消臭剤の臭いが化学的で気になりました。改めて家族や職員に聞き取り確認することを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人の行動パターン、他の方との相性を考慮し、落ち着いて過ごしていただくよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅での生活、希望を十分に踏まえ、馴染みのある物を馴染の場所に配置し、安心して生活していただけるよう配慮している。	冷蔵庫やテレビ、仏壇が持ち込まれた居室には職員とで制作した表札がかかり、「うちもみて、みて」とツアーガイドのように案内する姿に常の安寧が受けとめられます。布団乾燥機で「ふかふかだよ」との自慢もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人のできることを把握して自立を促しながら安全に配慮された環境整備に努めている。		